

Transport in to the future

はじめに

新しい

発電・省エネ

日本は交通に世界で一番目にエネルギーを消費する国です。その中でも自動車は16.5%で日本の運輸部門のCO2排出量の44%を占めています。逆に鉄道は3.8%ととても小さいんです。

そして、交通機関を動かす燃料が減って来ます。このように問題が起きると、将来的には日常の移動手段が減り、生活に負担がかかるかもしれません。そこで自動車、飛行機、鉄道だけでなく、人の交通機関が企業から個人まで、交通を未来に残そうという努力をしています。

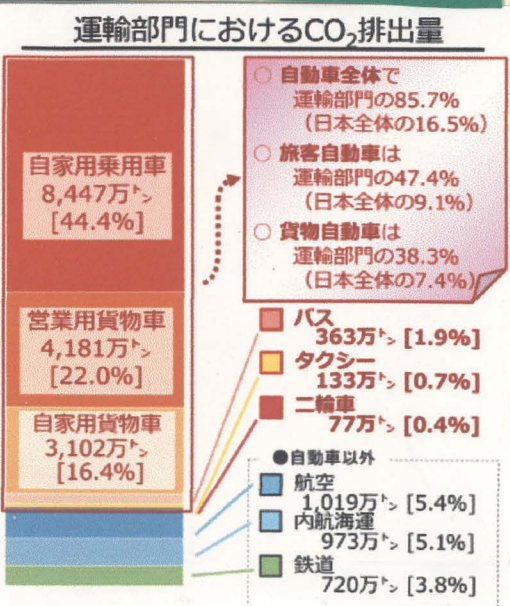
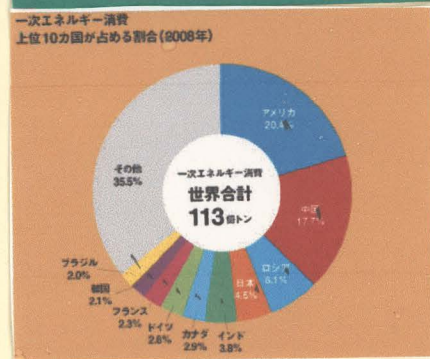
飛行機は、省エネの取り組みが、持続可能な社会で実現に向けて、さまざまな取り組みが推し進められています。主な取り組みは、少燃費機材への更新、運航の工夫、燃料の活用、このようにCO2排出量の削減に力を入れています。また、2050年までにCO2排出量をゼロにする目標を掲げ、様々な取り組みを推進しています。他にも、航空燃料(SA)の開発促進の活用など、色々な取り組みをすることで、CO2排出量を減らしています。



札幌市立桑園小学校
5年5組
菅原 悠心
吉田 歩
井本 主祐
神林 旭陽
9月19日発行

びっくり!! 高速道路発電

利用者が多い首都高速道路では、高速道路で発電する取り組みを推進しています。ソーラーパネル発電は、路面やパーキングエリアの屋根にソーラーパネルを設置し、太陽光で発電するという取り組みです。また、この発電は、CO2を出さず、量を減らすことができるので、地球温暖化を防ぐことにも繋がります。次に、振動発電は、路面に圧電素子を埋め込んで、走る車の振動で発電する方法です。災害時の電力保護になる可能性があります。注目されている発電方法です。高速道路発電は、可能性を秘めています。この方法が他の地域にも伝わってほしいです。

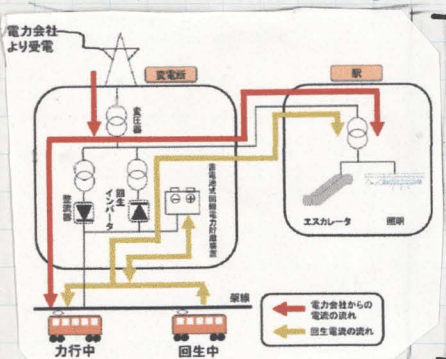


身近にある、地下鉄のひみつ

地下鉄は、環境負荷低減のための取り組みが、様々な面で取られています。例えば、再生エネルギーの利用、省エネ設備の導入、省電化の推進などです。



再生エネルギーの活用、省エネ設備の導入、省電化の推進など、様々な取り組みが、地下鉄の運営に貢献しています。例えば、再生エネルギーの利用により、電力消費を抑え、環境負荷を低減しています。



電力消費を抑え、環境負荷を低減しています。また、省エネ設備の導入により、電力消費を抑え、環境負荷を低減しています。

未来のエコカー『ハイブリッド車』

まとめ
これ、毎日、僕達が、交通機関を守る手助けが、できるのです。

Q ハイブリッド車はいつまで経っても売れないのか？
A ハイブリッド車は、世界初となる量産化が実現しました。また、CO2排出量が少ないので、環境に優しいです。

Q ハイブリッド車の性能は？
A エンジンをかける時や、ブレーキをかける時に発電することによって、CO2排出量が少なくなります。



参考
札幌市交通局
旭陽
神林
井本
主祐
吉田
歩
菅原
悠心
ENERGY FRONT LINE
JAPAN AIRLINES

編集後記
この新聞を作るにあたって、環境を守るために、省エネの取り組みを、この新聞を通じて、皆さんに伝えたいと思います。

この新聞を作るにあたって、環境を守るために、省エネの取り組みを、この新聞を通じて、皆さんに伝えたいと思います。